



モリトーは、安心と楽と満足を提供します！

モリトーはこんな会社でした。

何度かの挫折と鉄くずの山を乗り越え、新しいコンセプトで開発が始まった。

日本家屋は、4畳半、6畳、8畳、浴室、トイレ、など各部屋が狭く区切られ、入り口や廊下幅が75~80cmと極めて狭い。玄関の段差、上がり の段差、敷居の段差、畳の部屋、じゅうたんの部屋、床走行リフトがスムーズに通過できるなどほとんどなくバリアフリーとは無縁です。しかしこの様な家屋でも使えるリフトを開発しなければ、在宅での介護でお困りの方に喜んでいただくことができない。

そこで考えたのが、現在のつるべの原点とも言える製品です。

アームや電装品（モーター、スイッチ、コントローラ）を共通部品にすれば、コストを抑えることができる考えた。リフト本体からアームとモーターが簡単に取り外せ、ベッド、お風呂、玄関で使えるという画期的なアイデアが生まれたのです。1992年のことです。

あらかじめ、本体をベッドや壁や柱に固定しておいて、アームと電装品を持っていくシステムで、1軒で3カ所使用しても本体だけ購入すればアームや電装品は1式だけで済む。

しかも壁や柱についている本体もアーム電装品を外しておくと邪魔にならない。

「これは凄い！いける！」これで方向性は決まった。しかし開発はこれからが本番、沢山の問題が次々にやってくるのです。

アーム、電装品の着脱をどこまで簡単にできるか、女性やお年寄りが頻繁に持ち運ぶためには軽量でコンパクト化が必須なのである。さらにどこにどんな風に取付けするかが大問題なのである。

まずはベッド、極めて単純な発想でベッドそのものを改造してリフトを取り付けて第1号のBセットを作ることにした。玄関用では通し柱、管柱（くだばしら）の幅が90~105mmなので柱のサイズに合ったサイズを基本としたGセットの開発を進めた。

問題はお風呂です。特に、ユニットバスでの取付け方法には相当悩まされた。ユニットバスメーカーに強度の問い合わせをしたが正確な返事は帰ってきません。いかに荷重を分散させるか、そのための設置方法、部品の形状、調節方法などなど試行錯誤。

そんな中、大手のユニットバスメーカーから声がかかり実際にテストをして頂けることになった。めでたく合格。

おかげさまで、これまで数千台の設置でユニットバスが大きく破損した事例は皆無である。



快適な療養生活で楽しい人生を満喫しよう！



ポラリス自立支援
デイサービス



MORITOH CORPORATION

株式会社 モリトー

本社：愛知県一宮市東島町 3-36 (☎ 0120-65-2525)

営業所：札幌・仙台・埼玉・東京・中部・大阪・岡山・福岡

テレビコマーシャル全3部作ご覧ください！



入浴編

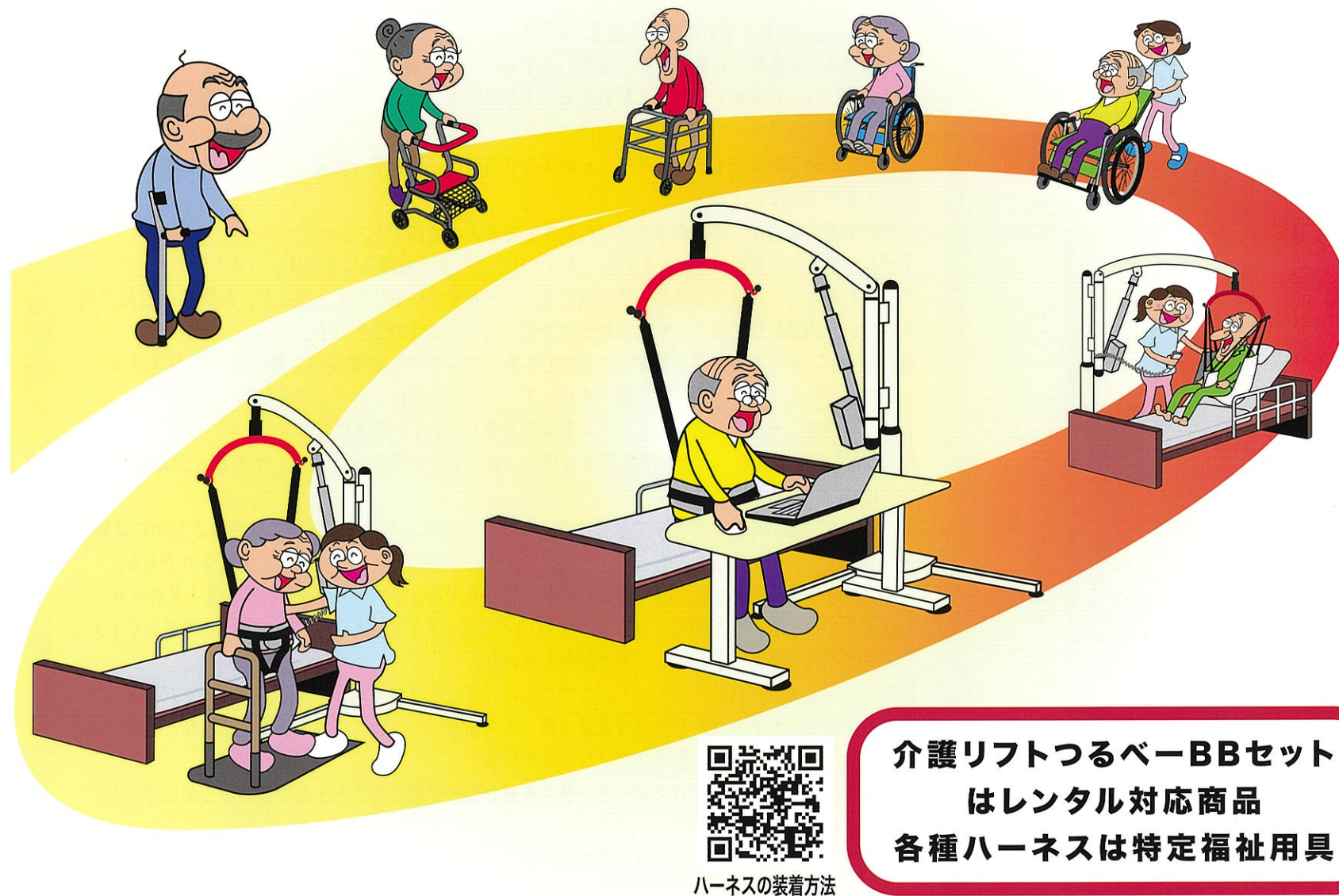


リフト編



ドライブ編

重度者の自立支援は端座位から始まる！



介護リフトつるべーBBセット
はレンタル対応商品
各種ハーネスは特定福祉用具

ハーンズの装着方法

ベッドで端座位を取ってみよう！

端座位姿勢は、ベッドから滑り落ちる危険があるのでハーネス(吊り具)を腰に巻いてから始めよう。安定するまでは、クラッチベルト(股ベルト)を付けておけば、ずれることもないので安心です。

ベッドの高さを調整して、足底(そくてい)をしっかり床につける事が大切です。体が倒れないぎりぎりのところをリフトで調整します。最初は、吊るベルトは4本から始めて安定したら2本にします。

一日中ベッドやリクライニングの車いすで寝ていては、昼と夜が逆転します。座っているだけで筋肉を使い、呼吸も深くなり、心臓も活発に動き出します。

端座位の姿勢になったとたん閉じかけていた眼がぱっちりと開き別人のように見えてびっくりした事がありました。

少しの時間でも毎日端座位姿勢ができれば元気がもどるかもしれません。

そうになったら次は、立位に挑戦です。

■ 神経細胞（ニューロン）の活性化

■ 心肺機能や体液循環の健全化

■ 自律神経の安定化と覚醒を促進

■ 抗重力筋の活性化をもたらし廃用を改善